

スタートガイド

SANMOTION G - EtherCAT AC サーボ
CiA402 PP モード (1 軸)

86EVA 版



86Duino Coding IDE 501

EtherCAT ライブラリ

(Version 1.0)

改定履歴

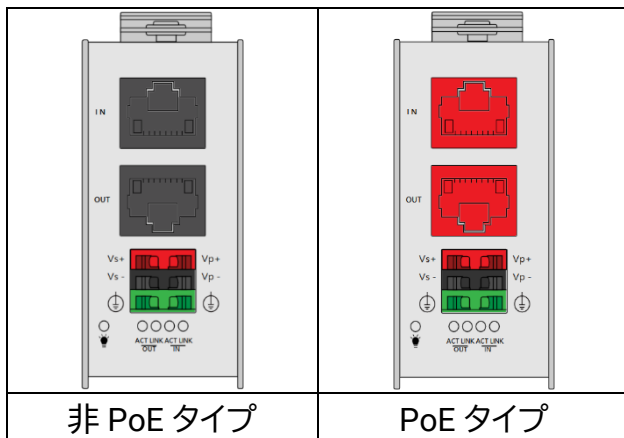
記述日	バージョン	備考
2025/10/31	Version1.0	New Release.

序文

本ガイドでは、QEC-M-01 (EtherCAT M デバイス) と山洋電気株式会社製 SANMOTION G Series **GADSA01AH24**(AC サーボアンプ, EtherCAT ドライバ)の Profile position (PP)モードによる動作での使用方法を説明します。

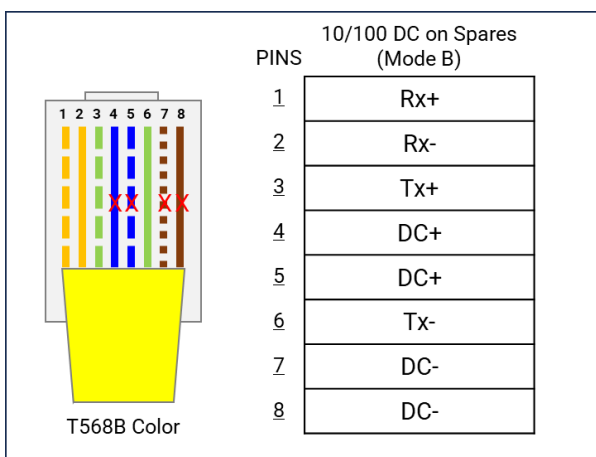
注意 QEC 機器の PoE (Power over Ethernet)について

QEC 製品のインストレーションでは、ユーザーは PoE と非 PoE を簡単に区別できます：
RJ45 ハウジングが赤色の場合は PoE タイプ、RJ45 ハウジングが黒色は非 PoE タイプです。



PoE(Power over Ethernet)は、ネットワーク経由で電力を供給する機能です。QEC には配線を減らすためオプションとして PoE 機能を用意しています。実際には PoE はシステム機器に基づいて選択されるため次の点に注意してください。

1. QEC の機能は EtherCAT P とは異なり互換性がありません。QEC の PoE 機能は PoE タイプ B に準拠しており、下記のようなピン配列になっています：



2. PoE デバイスと非 PoE デバイスを接続するときは、必ず EtherNet ケーブルのピン 4、5、7、8 を切断してください (例えば PoE 対応の QEC EtherCATM デバイスを他社の EtherCATSub デバイスに接続する場合)。
3. QEC PoE 電源は最大 24V/3A です。

1. ハードウェアの接続と配線

1. QEC-M-01 (EtherCAT M デバイス)
2. SANYO DENKI SANMOTION G シリーズ GADSA01AH24 (AC Servo アンプ, EtherCAT ドライバ)
3. 220 AC 電源 & 24VDC 電源 & ヨーロッパタイプ端子ケーブル & LAN ケーブル
4. GAM2A4005 (AC サーボモータ, フランジサイズ 40 mm 角)



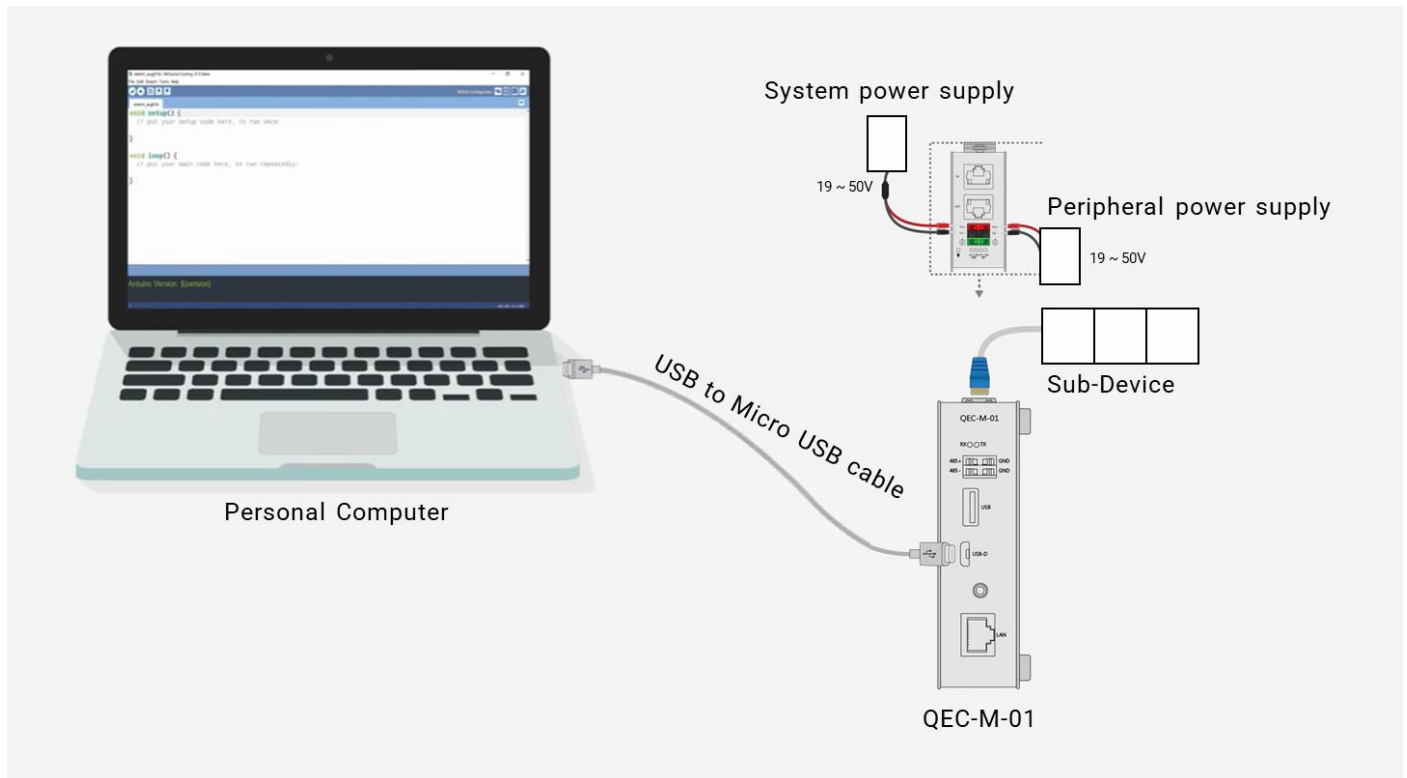
1.1 QEC-M-01

QEC EtherCAT M デバイス

1. 電源:

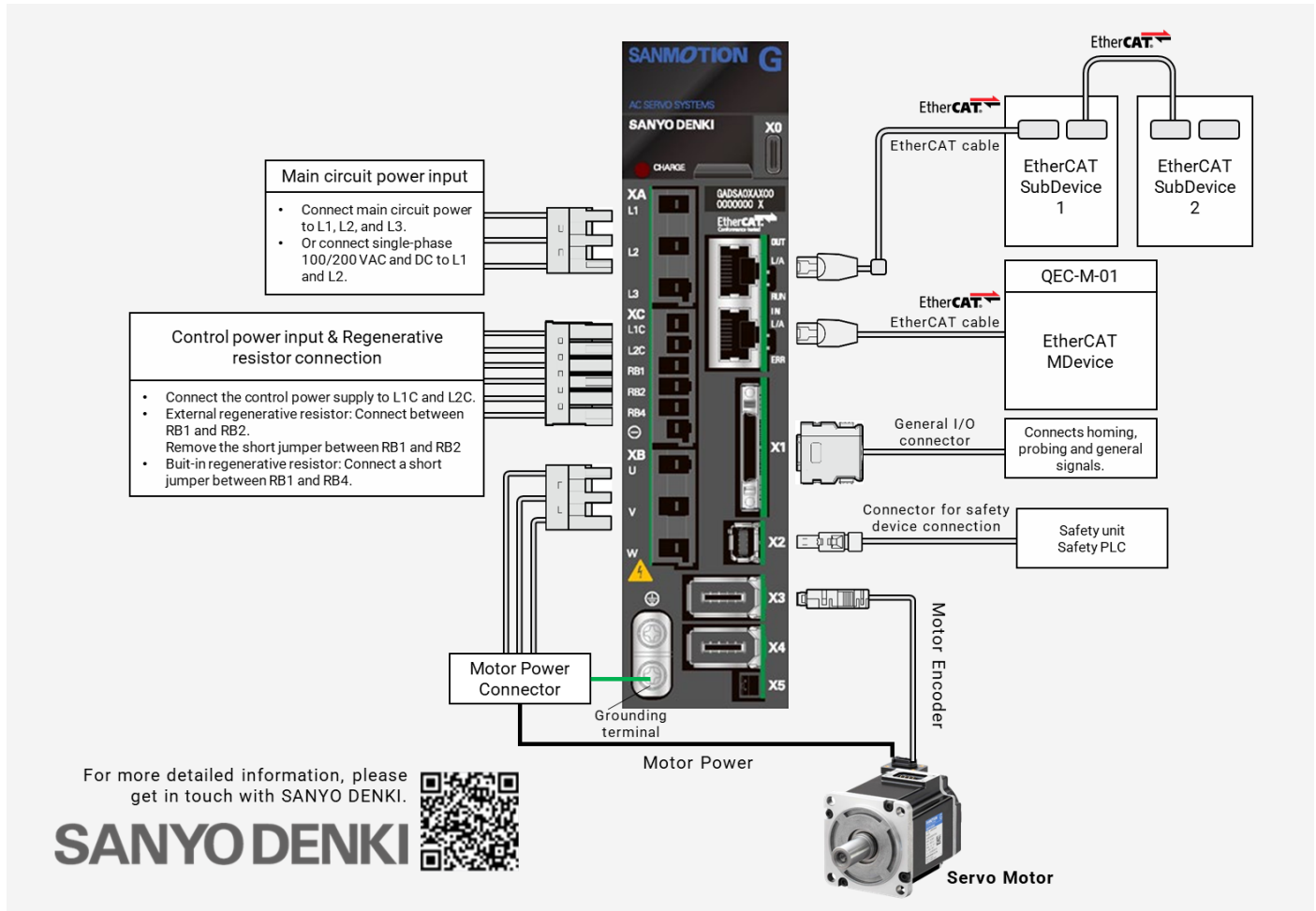
24V 電源を QEC EtherCAT M デバイスのヨーロッパタイプ端子 Vs+/Vs- および Vp+/Vp- に接続

2. EtherCAT 通信: EtherCAT 出力ポート (上側) から EtherCAT Sub デバイスの EtherCAT 入力ポートに RJ45 ケーブルで接続



1.2 GADSA01AH24

SANMOTION G シリーズ GADSA01AH24 は、CiA402 モーションプロファイル準拠の EtherCAT インターフェイスを内蔵した単軸 AC サーボアンプです。この図は、GAM2A4005F0XRK0 モーターを接続した例を示しています。



接続は機能別にグループ化されています:

1. EtherCAT 接続

- QEC-M01 → EtherCAT ケーブルでドライバ EtherCAT IN に接続します。
- ドライバ EtherCAT OUT から他の EtherCAT サブデバイスへのデージーチェーン接続 (オプション)。
- CiA402 コマンドを発行する前に、ネットワークを OP にします。

2. 主回路電源(モータ出力段)

- AC 電源を L1/L2/L3 に接続します。単相の場合は L1/L2(AC 200~240 V)を使用します。
- シャーシを PE 端子で接地します。
- **単相での注意** 位相欠相アラームを回避するには、System1 ID01 = 01 (AC 単相) を設定し
ず (AL.63.0)

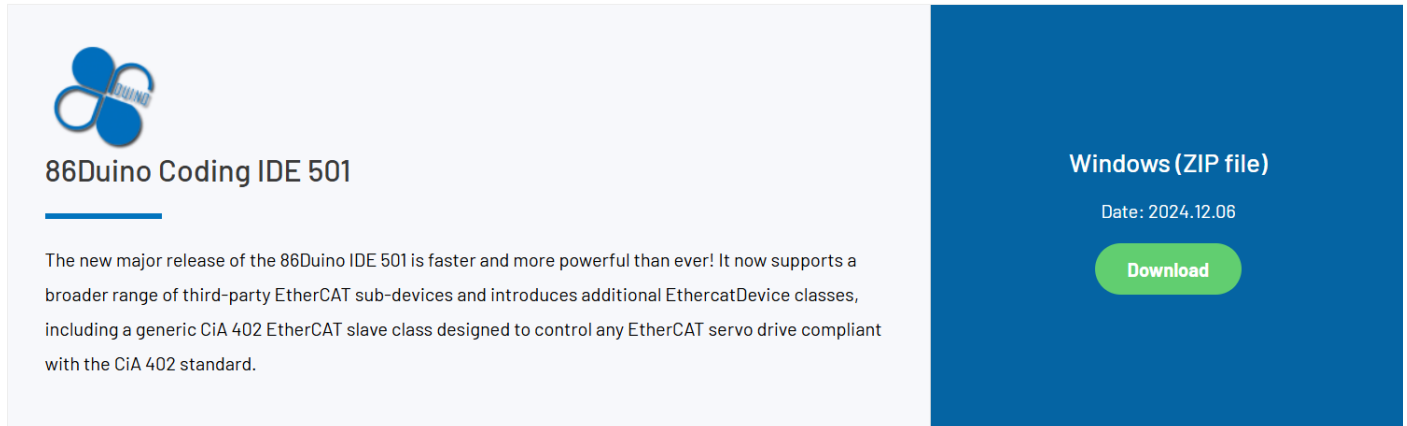
3. 制御電源 & 回生抵抗

- L1C/L2C で制御回路に電力を供給します(モデルごとに AC 200~240 V または DC 24 V)。
- 外付け回生抵抗器:RB1 と RB2 を接続します。

- 内蔵抵抗器(該当する場合):マニュアルに従って RB1 ~ RB4 を短絡します。
4. モーター & エンコーダー
- U/V/W → サーボモータ電源コネクタ。モーターPE をドライブ PE に接続したままにします。
 - X3/X4 → モーターエンコーダー(ES+/ES-、5V/SG、シールド)。
 - X5 (オプション) → アブソリュートエンコーダ用のエンコーダバッテリー。
5. 安全性(STO) & 一般的な I/O
- X2 → STO 用のセーフティ PLC/セーフティリレー
(両方のチャンネルを有効にする必要があり、STO はソフトウェアによって解除できません)。

2. ソフトウェア/開発環境

<https://www.qec.tw/software/> から 86duino IDE をダウンロードしてください。



86Duino Coding IDE 501

The new major release of the 86Duino IDE 501 is faster and more powerful than ever! It now supports a broader range of third-party EtherCAT sub-devices and introduces additional EthercatDevice classes, including a generic CiA 402 EtherCAT slave class designed to control any EtherCAT servo drive compliant with the CiA 402 standard.

Windows (ZIP file)
Date: 2024.12.06
[Download](#)

ダウンロード後、ダウンロードした zip ファイルを解凍してください。

追加のソフトウェアのインストールは必要ありません。86duino.exe をダブル・クリックして IDE を起動します。



***注:** Windows が警告を表示させた場合は、[詳細]を 1 回クリックし、[実行を続行]ボタンを 1 回クリックします。

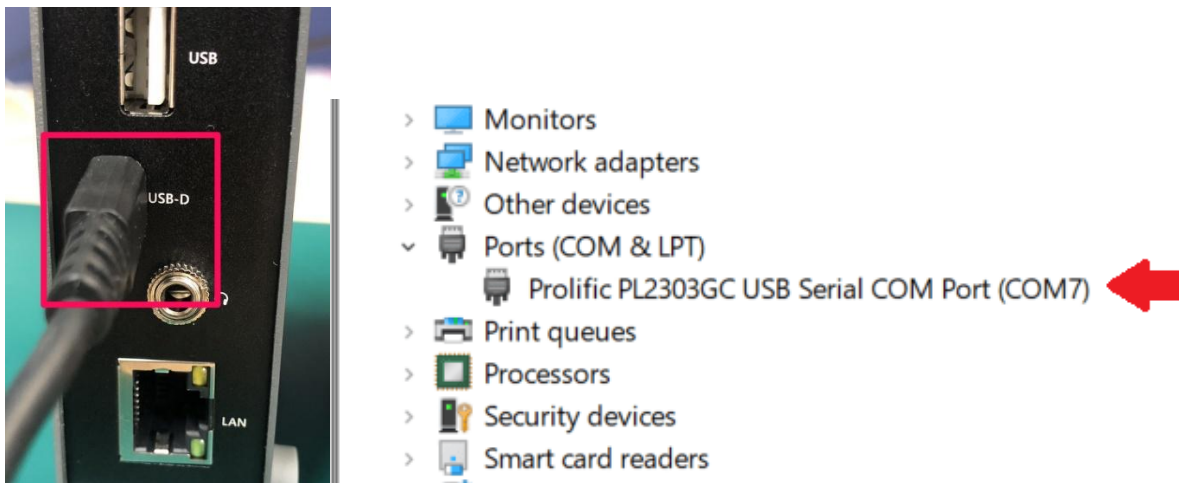
86Duino コーディング IDE 500+ は下図です。



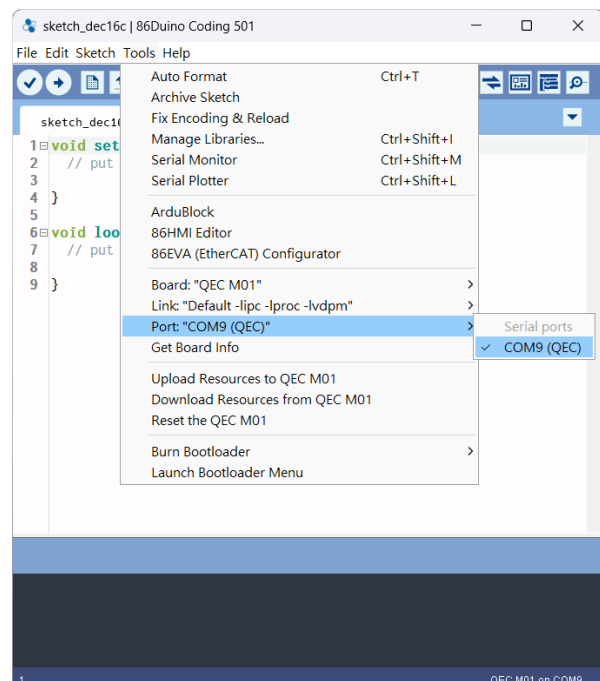
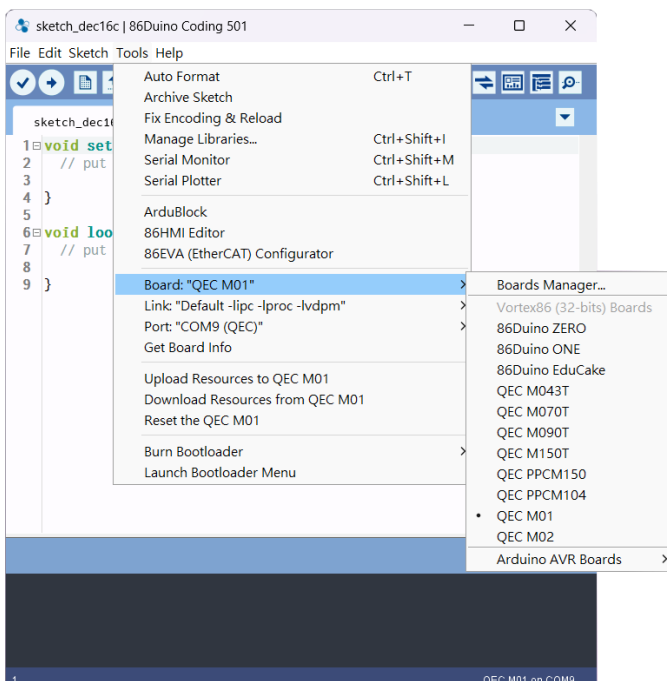
3. PC に接続して環境をセットアップする

以下の手順に従って開発環境をセットアップします:

1. Micro USB - USB ケーブルで QEC-M-01 を 86Duino IDE がインストールされた PC に接続します
2. QEC の電源を投入します。
3. PC で「デバイス・マネージャー」(Win+X キーを押した後のメニューで選択) -> 「ポート(COM および LPT)」を開き、ポートの内容を確認します。「Prolific PL2303GC USB Serial COM Port (COMx)」が検出されていることがわかります。検出されていない場合は、必要なドライバをインストールする必要があります(Windows PL2303 ドライバの場合は、[ここ](#)からダウンロードできます)



4. 86Duino IDE を開きます。
5. ボード(QEC M デバイス)の選択: IDE のメニューで、[Tools] > [Board] > [QEC-M-01] (または使用する QEC-M M デバイス型名) を選択します。
6. ポートの選択: IDE のメニューで、[Tools] > [Port] を選択し、デバイス・マネージャーで確認した QEC-MM デバイスに接続する USB ポートを選択します (この場合、COM9 (QEC))。



4. 86EVA によるコンフィグレーションとコードによる記述

この例では 86Duino IDE のグラフィカルなローコード・プログラミング・ツールである 86EVA を通じて、EtherCAT MDevice(QEC-M-01)と SANMOTION G ドライバ(GADSA01AH24)を操作する方法を示しています。

ソフトウェア・ツールの説明:

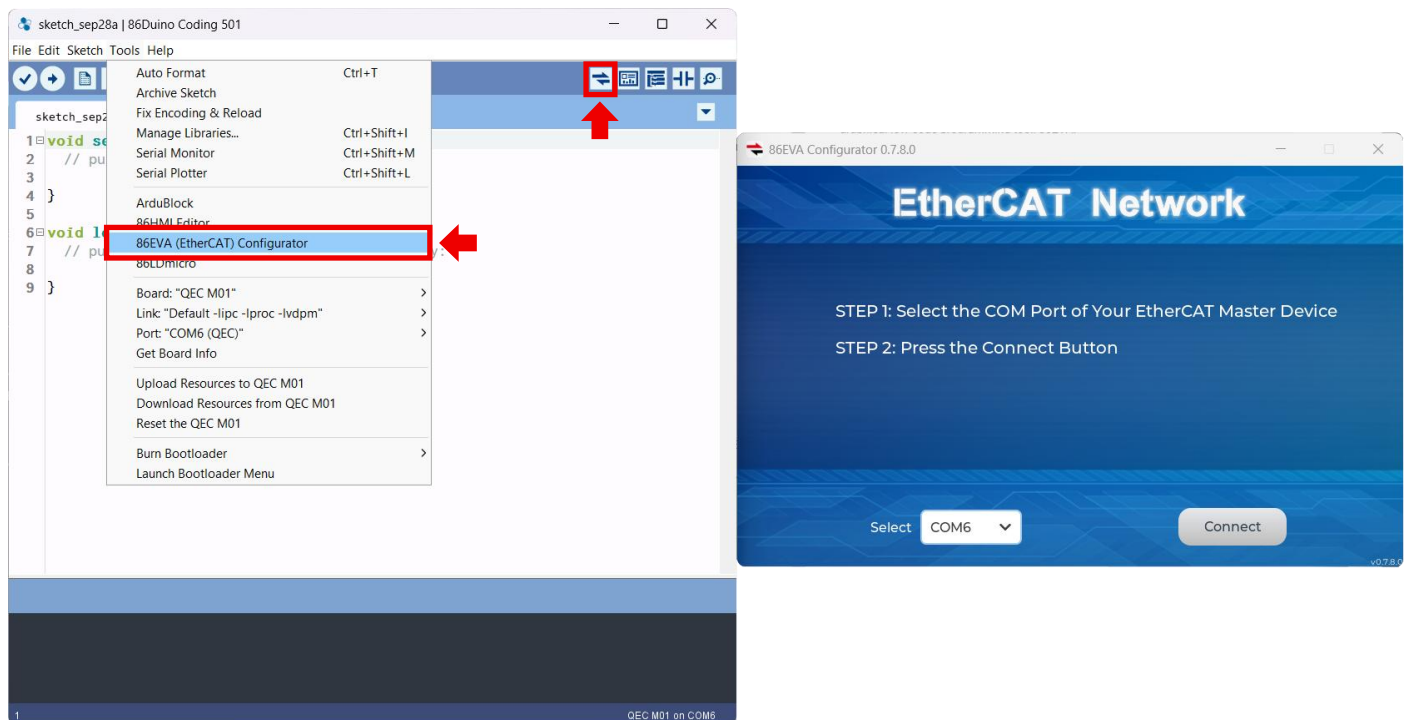
- **86EVA (EVA, EtherCAT-Based Virtual Arduino):**

86EVA は、86Duino IDE EtherCAT ライブラリベースのグラフィカル EtherCAT コンフィギュレータであり、86Duino 開発キットの 1 つです。

このコードは EtherCAT 通信を確立し、GADSA01AH24 をプロファイル位置(PP)モードで制御します。モーターの位置は周期的に更新され、目標位置は 1000000000 と-1000000000 単位の間で交互に変化し、連続的な前進と後退の動きをシミュレートします。

ステップ 1: 86EVA を起動してスキャンする

86EVA ツールは次のボタン、またはメニューから開くことができます。



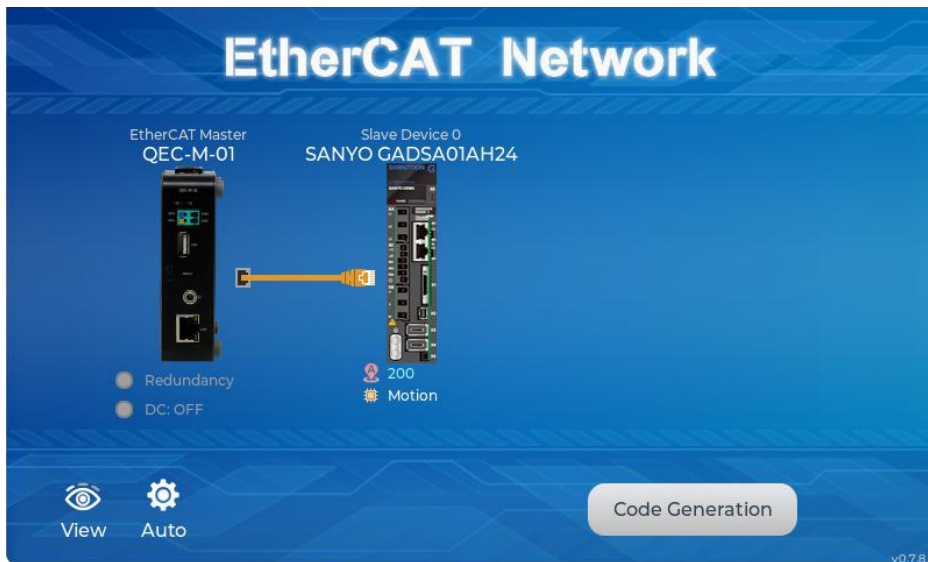
QEC-M-01 の COM ポートが正しく選択されていることを確認します。



QEC-M-01 の COM ポートが正しく選択されていることを確認後、「Connect」ボタンを押し、EtherCAT ネットワークをスキャンします。



EtherCAT ネットワークのスキャンが完了すると、接続されているデバイスが表示されます。



ステップ 2: パラメータを設定する

スキャンしたデバイス画像をダブルクリックすると対応するパラメータ設定画面に入ります。

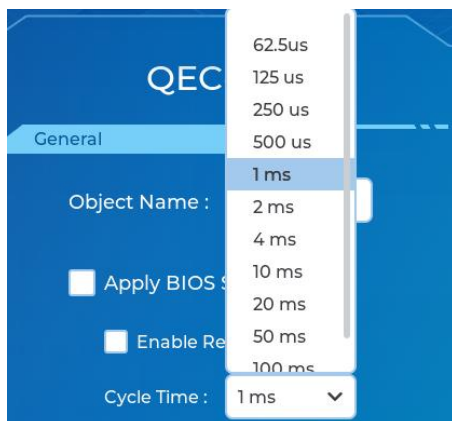
QEC-M-01

QEC-M-01 の画像をダブルクリックすると、パラメータ設定が表示されます。



以下の設定を確認してください。

1. 「Apply BIOS Settings」をオフ
2. 「Cycle Time」で「1ms」を選択

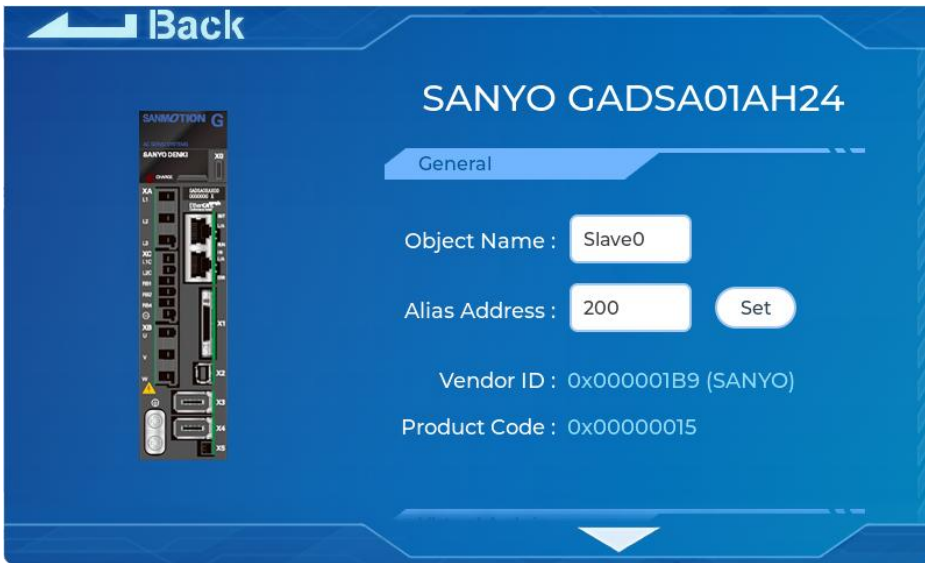


左上の「Back」をクリックして戻ります。



GADSA01AH24

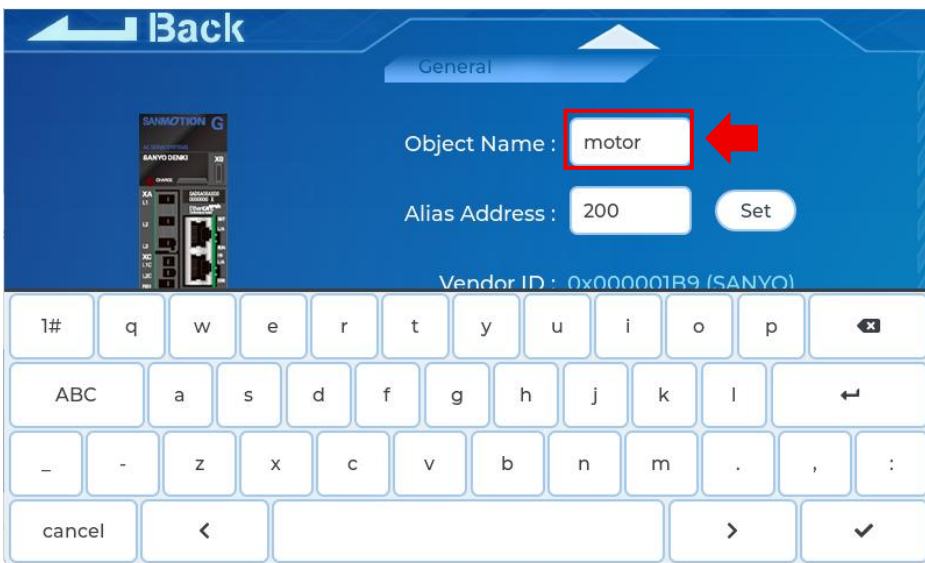
GADSA01AH24 の画像をダブルクリックして、GADSA01AH24 のパラメータ設定を確認します。



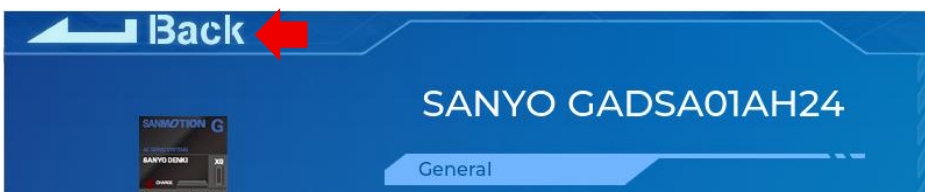
このページでは Object Name, Alias Address, Vendor ID, Product Code が表示されます。

「Object Name」を "motor"に変更します。

Object Name をクリックすると、キーボードが表示されます。

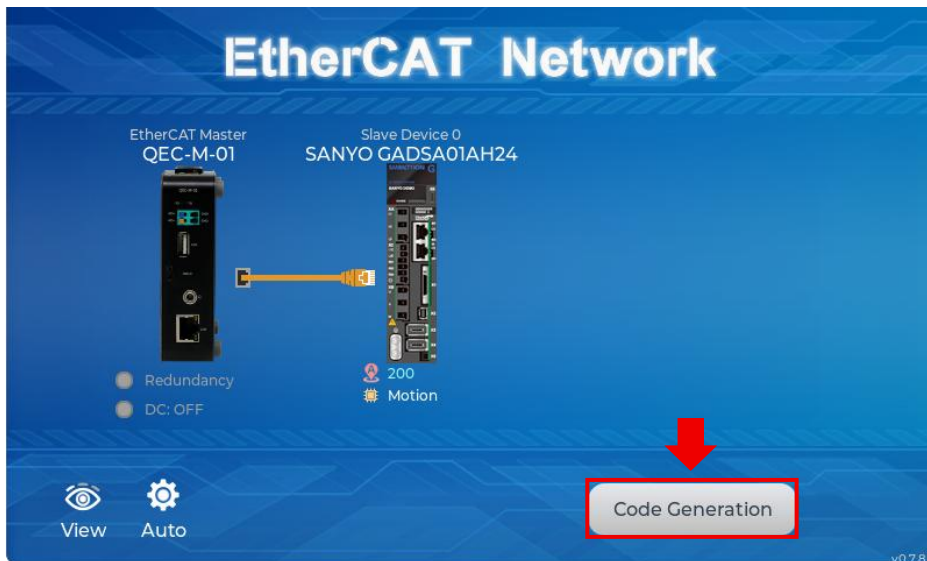


左上の「Back」をクリックして戻ります。

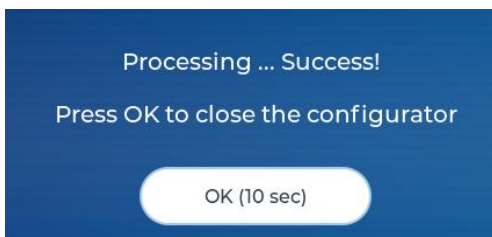


ステップ 3: コードの生成

デバイスのパラメータを設定後、ホーム画面に戻り、右下にある「Code Generation」ボタンを押します。

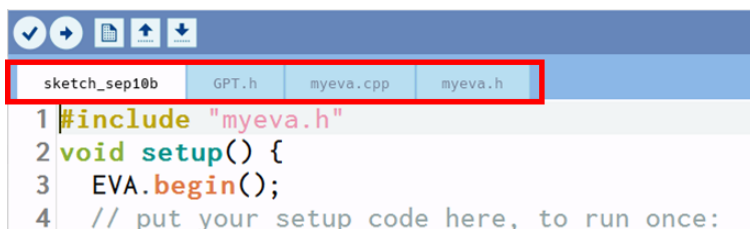


完了後「OK」ボタンをダブルクリックして 86EVA を閉じます。そのままにしておいても自動的に 10 秒後に終了します。



次のコードとファイルが生成されます:

- sketch_sep10b: メイン・プロジェクト (.ino、プロジェクト名による)
- myeva.cpp: 86EVA の C++ プログラム・コード
- myeva.h: 86EVA のヘッダ・ファイル



追記:

86EVA がコード生成後、メイン・プログラム(.ino)内に下記のコードが自動生成され、いずれかでも欠けると 86EVA が動作しなくなります。

1. #include "myeva.h": EVA ヘッダ・ファイルのインクルード
2. EVA.begin(); in setup(): EVA 機能の初期化

ステップ 4: コードの記述

86EVA から生成されたプログラミングコードは、デフォルトで以下のように設定されています。

- GADSA01AH24 ドライバ: `EthercatDevice_CiA402` object.
- CiA402 モード: Profile Position (PP) mode.
- EtherCAT モード: ECAT_SYNC.

以下の箇所はユーザにより設定されています。

- EtherCAT サイクルタイム: 1 ms
- Device Object Name: QEC-M-01 は“**EcatMaster**”、GADSA01AH24 は“**motor**”

A. Setup()関数内の説明:

`setup()`関数では、通信を初期化し、モーターを CiA402 Profile Position (PP)モードに設定します。下記の手順に従ってください。

1. Serial 通信の初期化
 - Serial 通信をボーレート 115200 でスタート
2. 86EVA の開始
 - `EVA.begin()`関数を使用して、EtherCAT ネットワークを開始および初期化します。
3. Motor の有効化
 - `enable()`関数を使用してモーターを有効化し、CIA402_OPERATION_ENABLED 状態に移行させます。
4. Profile Parameter の設定
 - Motion Profile Type: Linear Ramp; Profile Velocity: 100,000,000; Acceleration: 50,000,000; Deceleration: 50,000,000.

B. Loop()関数の内の説明:

`loop()`関数では、モーターの現在位置がシリアルモニターに表示され、モーターは繰り返しサイクルで前後に交互に動作します:

1. ステートマシーンロジック
 - case 0: モーターをスタートし、目標位置(1,000,000,000 単位)へ移動する。コマンドが正常に実行されたら、次のステートへ遷移する。
 - case 1: モーターが目標位置に到達するまで待機する。目標に到達したら、次のステートに進む。
 - case 2: モーターをスタートし、元の位置(-1,000,000,000 単位)に戻る。コマンドが正常に実行されたら、次のステートに移行する。
 - case 3: モーターが元の位置に戻るまで待機する。目標位置に到達したら、ステートマシンをケース 0 にリセットし、動作サイクルを繰り返す。
2. コードロジックの要約
 - 位置移動を開始するには、`pp_Run()`関数を使用する
 - `pp_IsTargetReached()`関数を使用して、目標位置に到達したかどうかを確認する
 - ステートマシンは case 0 から開始し、case 3 完了後にリセットされる

コード例:

```
#include "myeva.h"

int pp_state = 0;



void setup() {
  Serial.begin(115200);
  EVA.begin();

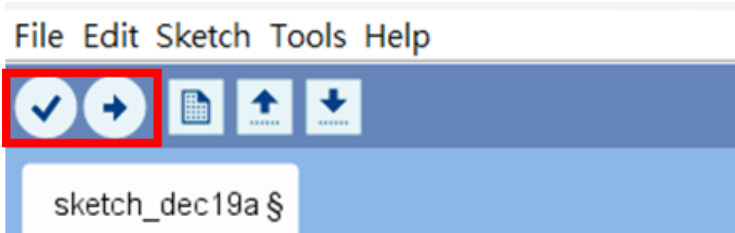
  Serial.print("Enable: "); Serial.println(motor.enable());

  motor.pp_SetMotionProfileType(0); // Linear ramp (trapezoidal profile)
  motor.pp_SetVelocity(100000000);
  motor.pp_SetAcceleration(50000000);
  motor.pp_SetDeceleration(50000000);
}

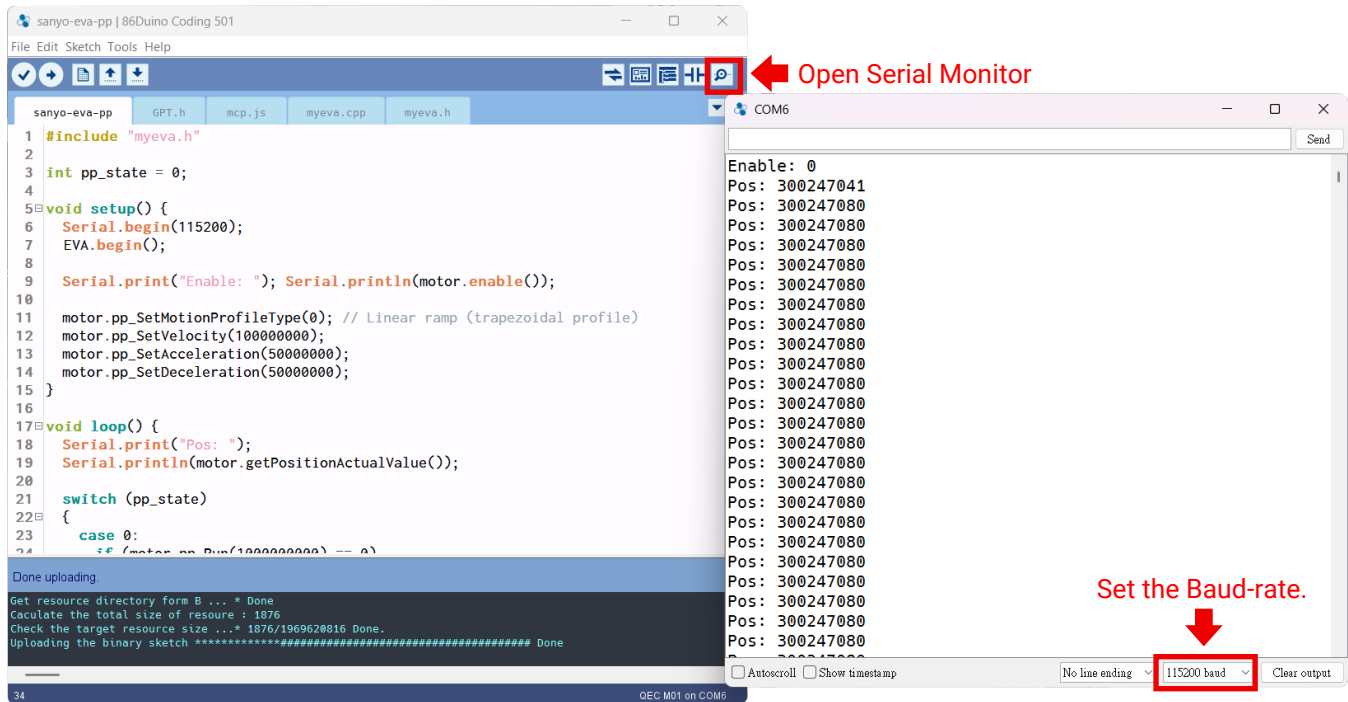
void loop() {
  Serial.print("Pos: ");
  Serial.println(motor.getPositionActualValue());

  switch (pp_state)
  {
    case 0:
      if (motor.pp_Run(100000000) == 0)
        pp_state++;
      break;
    case 1:
      if (motor.pp_IsTargetReached())
        pp_state++;
      break;
    case 2:
      if (motor.pp_Run(-100000000) == 0)
        pp_state++;
      break;
    case 3:
      if (motor.pp_IsTargetReached())
        pp_state = 0;
      break;
  }
}
```

注: コードを記述したならば、ツールバーの  をクリックしてコンパイルします。コンパイルが完了しエラーがないことを確認したら  をクリックしてプログラムをアップロードします。



QEC-M-01 にプログラムをアップロードしたら、86Duino IDE でシリアルモニタを開きます。シリアルボーレートが設定値と同じであることを確認してください。



EtherCAT 通信設定が成功すると、シリアルモニターには CiA402 スイッチが enable 状態に移行したことを示す「Enable: 0」が表示されます。



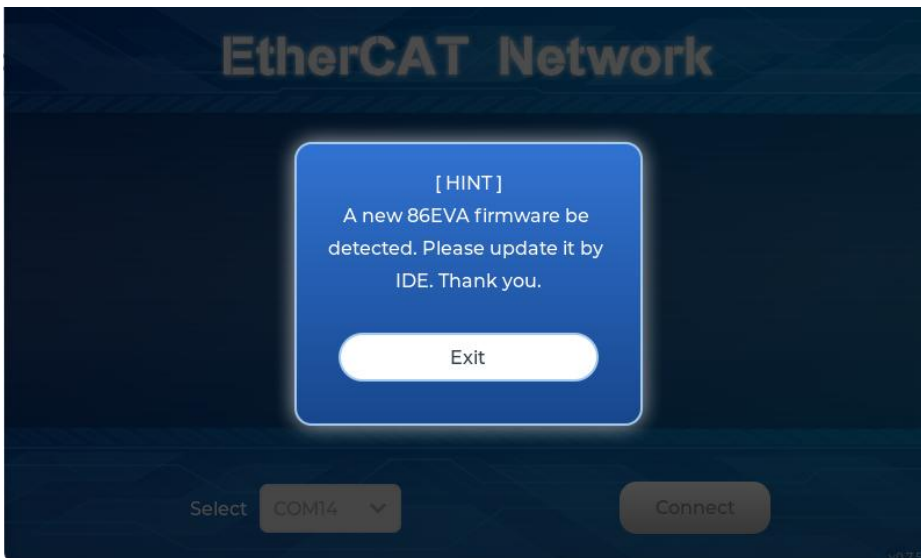
モーター現在位置がシリアルモニターに出力されます。



トラブルシューティング

QEC-M-01 へのコードのアップロードが成功しない

コードのアップロードに成功しない場合は、86EVA を開いて QEC EtherCATM デバイスの環境に異常がないか確認してください。下図のようにブートローダ、EtherCAT ファームウェア、EtherCAT ツールを含む QEC EtherCATM デバイスの環境を更新してください。



アップデートの進め方を説明します:

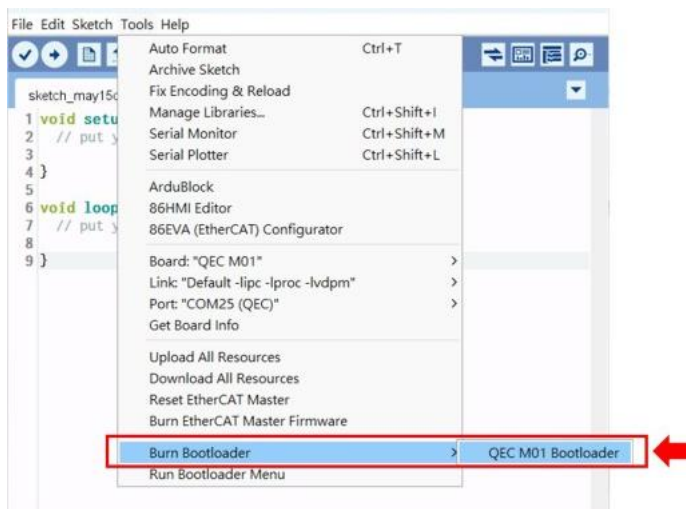
ステップ 1: QEC-M のセットアップ

1. 86Duino IDE 500+ (または最新バージョン) をダウンロードしてインストールします: [Software](#) からダウンロードできます。
2. QEC-M を PC に接続: USB ケーブルを使用して QEC-M を PC に接続します。
3. 86Duino IDE を開く: インストールが完了したら、86Duino IDE ソフトウェアを開きます。
4. ボードの選択: IDE メニューから、**[Tools] > [Board] > [QEC-M-01]** (または使用中の QEC-M の型名) を選択します。
5. ポートの選択: IDE メニューから **[Tools] > [Port]** を選択し、QEC-M が接続されている USB ポートを選択します。

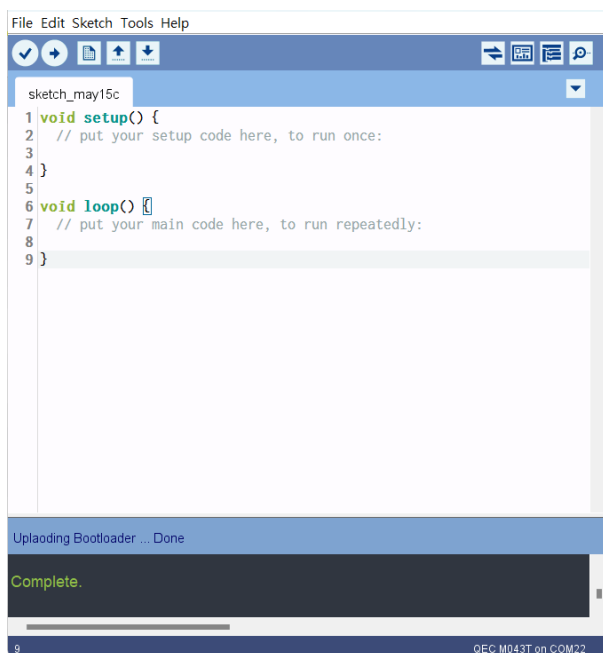
ステップ 2: 「Burn Bootloader」ボタンをクリック

QEC-M 製品に接続後、「Tools」>「Burn Bootloader」に移動します。現在選択されている QEC-M 名が表示されます。その上をクリックすると更新プロセスが開始されます。これには約 5~20 分かかります。

- QEC-M-01:



ステップ 3: アップデートを完了



記の手順を完了すると、QEC-M は最新の開発環境バージョンに正常に更新されます。

Warranty

This product is warranted to be in good working order for a period of one year from the date of purchase. Should this product fail to be in good working order at any time during this period, we will, at our option, replace or repair it at no additional charge except as set forth in the following terms. This warranty does not apply to products damaged by misuse, modifications, accident or disaster. Vendor assumes no liability for any damages, lost profits, lost savings or any other incidental or consequential damage resulting from the use, misuse of, originality to use this product. Vendor will not be liable for any claim made by any other related party. Return authorization must be obtained from the vendor before returned merchandise will be accepted. Authorization can be obtained by calling or faxing the vendor and requesting a Return Merchandise Authorization (RMA) number. Returned goods should always be accompanied by a clear problem description.

本書に記載されているブランド名および製品名は、各社の所有物および登録商標です。
本書に記載されている名称はすべて、識別目的のみに使用されます。

All Trademarks appearing in this manuscript are registered trademark of their respective owners.
All Specifications are subject to change without notice.

©ICOP Technology Inc. 2025

日本語版資料は、英語版を翻訳したもので、内容に相違が生じる場合には原文を優先します。